

シニア・ストラテジスト
山本 雅文

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

ギリシャ期待でも上がれないユーロ

<ポイント>

- ◆昨日は、ギリシャ支援問題についてギリシャが新提案を行ったことでようやく合意の可能性が高まったことを受けて、欧州を中心に株価が上昇、欧米利回りも上昇する中で、為替市場では米中古住宅販売の予想比上振れも手伝ってドルが対主要通貨で堅調となった。
- ◆ドル/円も、ギリシャ問題の進展の可能性を好感して米中長期債利回りと共に上昇、122 円台後半から一時 123.42 円へ上昇した。
- ◆他方、ユーロは東京時間は小高くスタートし、欧州時間入りには欧州株高やギリシャを中心に欧州株や周縁国債券が上昇(周縁国利回りは低下)したにも拘らず、上値の重い展開だった。
- ◆この間、ギリシャ懸念の後退は新興国通貨の押し上げ要因となり、トルコリラ、ブラジルリアルや南アランドの対円での上昇が目立った。
- ◆本日は、中国 HSBC 製造業 PMI 速報値、ユーロ圏 PMI、トルコ中銀金融政策決定、米耐久財受注および新築住宅販売件数などが予定されている。もっとも重要なのは米耐久財受注で、前月は市場予想を上回ったものの水準的には冬場の悪化から殆ど回復していなかったことから、今回明確な回復を示せば、ギリシャ懸念の目先の後退と合わせて、米利回りとドルの押し上げ材料となりそうだ。
- ◆但しドル/円は黒田発言以降、積極的な買い手が減少しているとみられる中で、持続的な 124 円乗せは難しそうだ。

昨日までの世界:ギリシャ期待で上がったドル/円

ドル/円は、ギリシャ支援問題についてギリシャが新提案を行ったことでようやく合意の可能性が高まったことを受けて、早朝に 123 円乗せとなった。その後 122 円台へ軟化する局面もあったが、欧州時間入り後に合意への期待感の高まりを受けて欧州を中心に株価が上昇、欧米利回りも上昇する中で為替市場ではドル高が進行し、再び 123 円乗せとなった。そしてその後発表の米中古住宅販売が 535 万件と前月および市場予想を大きく上回ったこともあって、米中長期債利回りの更なる上昇と共に一時 123.42 円へ続伸した。

22 日にギリシャ政府が提出した新提案(21 日に提出されていたが誤ったドラフトが送信されていた模様)に対して、ユーロ圏財務相会合および首脳会合で一定の進展が評価され、週内合意の可能性が高まり月末のデフォルトリスクが後退したかたちとなった。次回は 25-26 日の EU 首脳会合が予定されているが、その前に 24 日にユーロ圏財務相会合が開催される運びとなった。

ユーロ/ドルは、週末 21 日にギリシャが新提案を行ったことを受けてユーロは東京時間から小高くスタートし一時 1.14 ドル台に乗せた。欧州時間入りには欧州株価やギリシャを中心とした周縁国債券が上

昇(周縁国利回りは低下)したが、ユーロはむしろドル高の動きの中で反落し、1.13 ドル丁度手前まで反落した。その後ユーロ圏首脳会合に向けて再度 1.14 ドルを回復する局面も見られたが上値は重く、引けにかけては 1.13ドル台前半へ反落した。

ユーロ/円は、ドル/円の堅調の影響が大きどどちらかという強含みで推移し、139 円台半ばから一時 140.64 円へ強含みとなった。

豪ドル/米ドルはギリシャ合意期待を受けてアジア時間は 0.77ドル台後半で強含みで推移したが、欧州時間入り後は米ドル高の影響を強く受けたかたちで、0.7721ドルへ反落した。

豪ドル/円は、豪ドルと円が対米ドルでほぼ同程度の動きとなったことから、95 円台半ばを挟んだ横這いの推移となった。

きょうの高慢な偏見:ギリシャ期待でも上がれないユーロ

[今週の見通しはこちら\(6月19日付FX戦略ウィークリー\)](#)

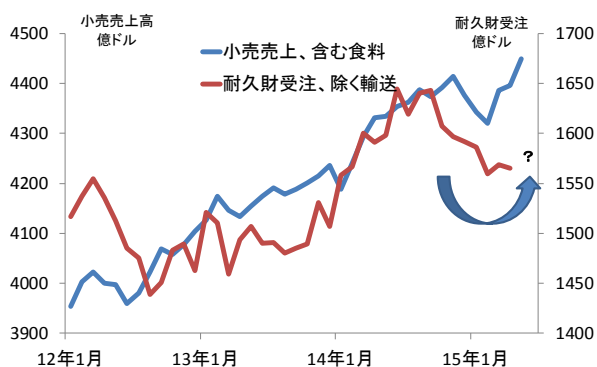
[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

ドル/円関連では米 5 月耐久財受注が最大の注目で、除く輸送用機器で前月比+0.5%の市場予想となっている。もっとも、冬場の大幅減少からの回復には大幅な予想比上振れが必要とみられ、そもそも振れが大きい統計だけに多少の上振れでは市場のドル買いでの反応は限定的に留まりそうだ。特に、ドル/円では 124 円台に乗せると政府・日銀からの円安けん制発言への警戒感が高まり易く、積極的なドル買い円売りを行う投資家は減少しているとみられ、持続的な 124 円台乗せは難しそうだ。

ユーロ/ドルは、ギリシャの新提案とユーロ圏首脳会合を受けてギリシャ支援問題の週内合意の可能性が高まったことから目先のデフォルト懸念が後退しており、下支えされ易いはずだ。但し昨日はギリシャ合意期待でも上昇しておらず、上値の重さも意識される。加えて、本日発表のユーロ圏各種 PMI は総じて前月から悪化方向の予想(例えばユーロ圏コンポジット PMI は前月の 53.6 から 53.5 へ 3 か月連続の小幅悪化予想)となっているほか、米経済指標の回復からくるドル高圧力も作用すると、ユーロ/ドルの上値は限定的となりそうだ。

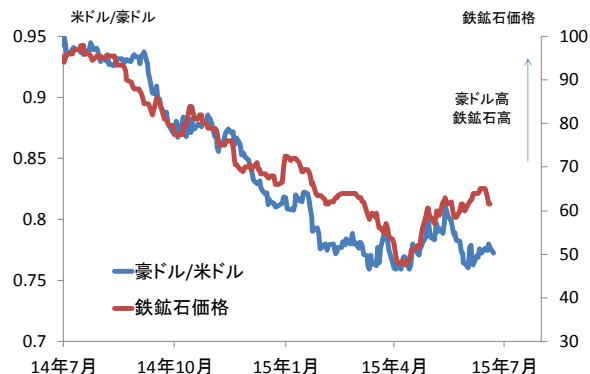
豪ドル関連では、中国 6 月 HSBC 製造業 PMI 速報値と鉄鉱石価格動向が注目となる。中国 HSBC 製造業 PMI は前月の 49.2 から 49.4 へ小幅改善予想となっており豪ドルの下支え要因だが、先週以降鉄鉱石価格が再び下落方向となっていることが上値抑制要因となりそうで、明確な方向感が出なさそうだ。

米国の小売売上高と耐久財受注



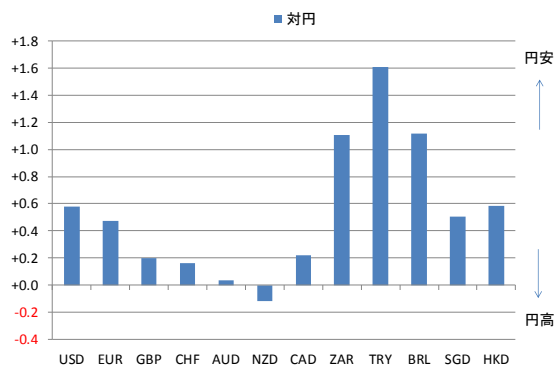
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

豪ドル/米ドル相場と鉄鉱石価格



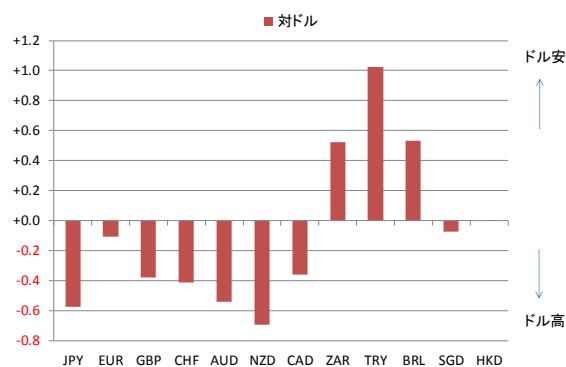
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対円相場(前日比%)



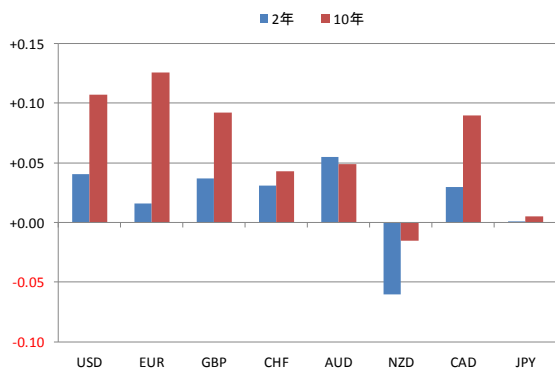
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



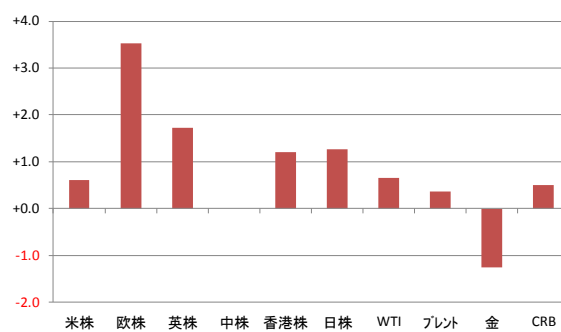
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会